

講義コード	513151803									
講義名	体育講義 EF									
(副題)										
開講責任部署	幼児教育科 (短大)									
講義開講時期	後期									
基準単位数	1									
時間	0.00									
代表曜日	火曜日									
代表時限	3 時限									
科目分類名	教養科目									
科目分野名	C 群									
対象学部・年次	短期大学部・2 年									
必須/選択	必修									
担当教員										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>職種</th> <th>氏名</th> <th>所属</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>専任教員</td> <td>福田 将史</td> <td>経営学部</td> </tr> <tr> <td>専任教員</td> <td>教務委員会 (短大)</td> <td>指定なし</td> </tr> </tbody> </table>		職種	氏名	所属	専任教員	福田 将史	経営学部	専任教員	教務委員会 (短大)	指定なし
職種	氏名	所属								
専任教員	福田 将史	経営学部								
専任教員	教務委員会 (短大)	指定なし								

授業の概要

授業の概要

運動やスポーツの正しいやり方を理解し、健康の維持・増進に必要な知識を得ることで、自分にあった健康管理の方法を習得する。

授業の方法

①プレゼンテーションの方法

授業では板書と配布印刷物を活用します。

②授業形態

講義形式で行います。

③アクティブラーニング

理解度確認のため、コメントシートを使用し、授業について振り返り、思ったこと、疑問等を記述する。

④課題に対するフィードバックの方法

毎回コメントシートの内容を確認し、次回の授業時に解説を行う。

授業の到達目標及びテーマ

体力水準や健康を良好な状態に保つためにも、生活習慣の予防・改善にも運動やスポーツを行うことの有効性が認められている。運動やスポーツの正しいやり方を理解し、健康の維持・増進に必要な知識を身につけ、自分にあった健康管理の方法を学ぶ。

到達目標については、学習成果における①幼児教育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協調性が該当する。特に、②③④を重視する。

授業計画表

回	項目	内容
第1回	第16回：卓球① 競技の特色と基本動作の習得	
第2回	第17回：卓球② ゲームルールのもとで実践体験	
第3回	第18回：卓球③ 自分の動作を振り返る	
第4回	第19回：卓球④ 技術向上の工夫に取り組む	
5	第20回：卓球⑤ ゲームの中で自分の動作を確	

第 回	認する	
第6回	第21回：サロンフットボール① 競技の特色と基本動作の習得	
第7回	第22回：サロンフットボール② ゲームルールのもとで実践体験	
第8回	第23回：サロンフットボール③ ゲームの中で自分の動作を確認する（前半45分） 体育講義 第1回：準備運動と整理運動 必要性和やり方を理解する（後半45分）	※体育講義の前半7.5回分を体育実技とし後半7.5回分を体育講義とする。
第9回	第2回 健康の意味とQOL	
第10回	第3回 運動の必要性和運動嫌いの子供の特徴	
第11回	第4回 子供のスポーツと怪我	
第12回	第5回 メタボリックシンドローム	
第13回	第6回 食物アレルギー	
第14回	第7回 女性の病気	
第15回	第8回 睡眠と成長ホルモン	
第16回	定期試験	

授業時間外の学修

日頃から運動・栄養・休養のバランスを意識し、特に運動と健康の維持・増進との関係についての知識を得よう心がける。

各回の授業に臨むにあたり、授業計画に示した各回の授業内容の予習を行うこと。各回の予習には90分かかると想定されます。

授業後、復習としてレジュメ及び板書事項の見直しをしてください。各回の復習には90分かかると想定されます。

実務経験の有無

ディプロマポリシーとの関連

ディプロマポリシー ①③ 自律学習能力の修得	ディプロマポリシー ② 専門的知識・技術の 修得	ディプロマポリシー④ 分析・論理構成・表現力 の修得	ディプロマポリシー⑤⑥ 問題解決能力・協働性の 獲得
◎	◎	◎	○

ルーブリック

評価項目	優秀 (excellent)	平均 (average)	途上 (developing)	未達 (unachieved)
理解度	授業内容を100%理解しており、授業内容を超えた自主的な学修が行えていると認められる	授業内容をほぼ95%程度理解しており、自主的な学修も少し行えていると認められる	授業内容の理解はほぼ75%程度であることが認められる	授業内容の理解は70%以下と判断できるため、レポートへの助言・新たな資料提供等の支援を行っている

課題解決能力	他からの支援を受けずに独自の能力で課題を解くことができるとともに、解法が定まらない他者に的確なアドバイスができる	基本的に他からの支援を受けずに独自の能力で課題を解くことができる	参考資料を参考にしたり他からの支援を少し受けながら自身の能力で課題を解くことができる	参考資料を参考にしたり他からの支援を受けたとしてもなかなか自身の能力で課題を解くことが難しいので、できるだけ一緒に課題解決ができるよう支援している
レポート力（復習も含む）	テーマについて、授業で紹介した方法、もしくはそれに類する独自の手法を使った分析が十分になされている	テーマについて、授業で紹介した方法で分析が十分になされている	テーマについて、授業で紹介した方法で分析がなされている	テーマについての分析がなされていない

成績評価法（表形式）

	評価基準	備考
定期試験	80%	
小テスト等		
成果発表		
授業への貢献度	20%	
レポート		
その他		

課題へのフィードバック方法

定期試験や小テストの結果について	課題（レポート等）について	模擬授業、プレゼン、発言等について
掲示板等に正解と講評を掲載する 授業の中で解説、講評する	掲示板等に正解と講評を掲載する 授業の中で解説、講評する	掲示板等に正解と講評を掲載する 授業の中で解説、講評する

ICTを活用した双方向型授業の内容

クリッカー、アンケート、小テスト等 チャット 掲示板の活用 メール等の活用
--

アクティブラーニングの割合

総授業時間数の30%程度のアクティブラーニングである

アクティブラーニングの内容

書く・話す・発表する等の活動におけるAL	経験値・技能を高める活動におけるAL	授業時間外におけるAL
----------------------	--------------------	-------------

小テストや授業内レポートの活用	PBL(課題解決型授業)	授業前レポート(予習)
教科書		
毎回の授業内容のレジюме、プリント、資料を配布する。		
参考書		
シラバスに従って、次回の授業内容について、図書館、インターネット等で検索する。		
SDGsとの関連		
4. 質の高い教育をみんなに		
特記事項等		
【特記事項】 ①実務経験雄ある教員 なし ②ナンバリング LCU 2401 オンライン授業の実施方法 Teamsによる教材提供、リアルタイム授業、小テスト、レポート等、また、ハイブリッド式授業を行う。		
研究室(訪問先等)		
中央研究棟4階430研究室を直接訪ねてください。火、水、木、金が出校日です。火曜日の5限目がオフィスアワーです。		
電話番号		
028-670-3780(研究室直通)		
授業用E-mail		
m-fukuda@sakushin-u.ac.jp		
成績評価法		
期末試験(80%)で授業内容全般の理解度を評価します。 平常点(20%)は授業態度(コメントシートの内容含む)で評価します。		